

《受章者インタビュー》

かんばせ

“芳は後世に流れる”

最良の額縁は最高の榮譽 芳を後世に流すために

〈銀座明倫館〉長瀬先生は平成28年秋の褒章で藍綬褒章を受けられ、銀座明倫館にご来社頂いて以来大変ご鼎頂頂いております。保護司という特別なボランティア活動からのご受章とのことですが、その内容をお聞かせ頂いてもよろしいでしょうか。

〈長瀬先生〉私は30年あまり会社勤めをした後、保護司を20年務め、この3月末で定年となります。保護司としての活動により、受章の榮譽を頂いたことになります。

保護司の仕事は主として罪を犯し

た青少年が社会に復帰する手助けをすることですが、地域の犯罪を予防する活動も行っています。例えば犯罪や非行を防止し、更生を支援する法務省の“社会を明るくする運動”に毎年携わってきました。また、各地域で保護司の活動の拠り所となっている団体、保護司会において会長として長期にわたり多様な役割を担ってまいりました。会の組織体制を整備し活動を活発にすると共に、保護司の増員も実現することが出来ました。地域の皆様のご理解とご協力そして仲間にも恵まれて勤め上げることが出来たものと考えております。



平成28年秋 藍綬褒章 長瀬 修先生 神奈川県横浜市ご自宅にて
聞き手 銀座明倫館 代表 磯村 砂月

〈銀座明倫館〉青少年の更生の支援。難しいお仕事だったかと思いますが、どのように接して来られたのでしょうか。

〈長瀬先生〉一言では語り尽くせませんが、例えば更生が必要な若者たちは、保護司の所に来るまでに厳しく叱られてきているので、まず褒めることを心がけました。人間どこかに褒められる所はありますので、そこから自立する力を引き出していく。若い人たちとの関係構築の中で、自分自身勉強になることも多々ありました。

〈銀座明倫館〉保護司の方々の犯罪予防の取り組みのおかげで、私たちが安心して生活出来る面があると思います。保護司に適した人材とはどのような方でしょうか。

〈長瀬先生〉まずは健康で活動的なこと、時間的余裕があること、生活が安定し地域社会からの信望のあること、それにももちろん社会貢献に対する熱意があることなどが必要とされています。



特製本紫檀 褒章の記・褒章額、半切記念写真額、
四ツ切記念写真額は床の間にバランス良く掲額

〈銀座明倫館〉今回、数多くのカタログから銀座明倫館を選んで頂いた理由をおうかがいします。

〈長瀬先生〉おっしゃる通り発表のタイミングで10冊以上のカタログが届きまして、十分比較検討させていただきました。その中で銀座明倫館のカタログが最も叙勲制度の歴史や意義を詳しく解説しており、国民として受章をどういった心構えで受け止めるべきかを考える上で大変参考になりました。国事行為として天皇陛下より頂ける勲章の重み、また勲章や賞状そのもの

も栄典にふさわしく作られた品であるということに得心がいきまされたので、銀座明倫館のカタログに沿って進めていけば褒章受章に恥じない振る舞いができると思ったのです。

また、スタッフの方々には大変丁寧且つきめ細やかに対応して頂き、銀座明倫館にお任せして正解だったと思っています。

〈銀座明倫館〉長瀬先生には私どもがご用意できる最高の額縁、特製本紫檀額をお求めいただきました。

〈長瀬先生〉天皇陛下の名において国から頂いたご褒美にふさわしく、悔いのないように額を選びたいと考えたところ、自然と特製本紫檀の額縁を選んでいました。カタログの解説もどういう特徴がある額縁なのかがわかりやすく、後の世に褒章受章の名誉を残せるような額縁をと考えて注文しました。期待通りの仕上がりで満足しています。

〈銀座明倫館〉今回、緞子(布地)をお選び頂いたのは奥様でしたが、特製本紫檀との組み合わせは大変上品に仕上がりがスタッフも驚くほどでした。今後レギュラー商品としてカタログ掲載予定です。

〈長瀬先生〉妻は絵画をたしなむので、色彩に関しては勤が働くことがあります(笑)。栄典にふさわしく雰囲気の良い額縁に仕上げさせて頂いて感謝しております。

長瀬先生ご用命の額は次のページ

〈銀座明倫館〉内示からご受章、現在に至るまで、印象深い事などはございますか。

〈長瀬先生〉長年地域社会のために働いてきたとはいえ、褒章受章は青天の霹靂でした。法務省の伝達式では職員の皆様総出で祝っていただき、とても感激しました。御参内の際には偶然最前列真正面、わずか3mほどの距離で天皇陛下の感謝のお言葉を聞くことができました。まさに感銘の至りです。

〈銀座明倫館〉お話をうかがっただけで背筋を正してしまう雰囲気が伝わってきます。奥様はいかがでしたか？

〈長瀬先生・奥様〉参内中、配偶者は後列にいましたが、陛下が目の前でふと立ち止まられて、会釈をなさったのが印象に残っています。テレビなどで映るよりもお元気そうでした。車椅子で参内された方にも、陛下は一人ひとりに視線を合わせて親しく声を掛けていらっしゃいましたね。

〈銀座明倫館〉実は長瀬先生には、こちらにお飾りいただいている額のほか、ご子息のために賞状の複製額と記念写真額をお求めいただきました。こういった意図がございましたでしょうか。

〈長瀬先生〉息子は仕事の都合で離れて暮らしておりますので、私が行ってきたボランティア活動の意味をまず知ってもらいたい。できれば息子たちにも、可能な範囲で社会に貢献してもらいたいと考えて贈るつもりです。小学生の孫たちも、「お祖父さんはこういう仕事をして国からご褒美を貰ったんだよ」ということを知っておいてほしい。“芳は後世に流れる”と申しますが、流れるのを待っているだけでなく、栄典をいただいた意味を伝えていきたいと思っています。

〈銀座明倫館〉今春の受章者の皆様も、額縁の選択にお悩みになるかと存じます。一言アドバイスを頂けますか。

〈長瀬先生〉叙勲・褒章とも、天皇陛下の名において国から国民が受けられる最高の荣誉ですから、その意味を深く理解し、敬意をもって扱うことですね。私の場合、藍綬褒章は最も古くからその意義を変えることなく続いてきた褒章であることを学び、受章の意義を深く噛みしめております。

具体的には予算の許す限り、悔いのないような額縁を準備できればよろしいかと思います。今でも朝、褒章を掲額している部屋の空気を入れ替える時などに、思わず立ち止まって見入ってしまうことがあります。

最高の荣誉は最良の額縁に納めたいものです。

〈銀座明倫館〉ありがとうございました。

